夢をかなえたチャイルド
My Dreams Come True

タンザニア

近年６～７%の高水準で経済成長しているものの、都市部と地方では貧富の差が激しく、1日1.25ドル未満で暮らす貧困状態にある人は国民の約半数にのぼる。

タンザニアの小学校で子どもたちを教える元チャイルドのエリエットさん

“井戸”がかなえた夢

「『あなたにも、人生を変える力がある』ということを、子どもたちに教えていきたいの。私が人生を変えることができたように」タンザニアの支援地域で出会ったエリエットさん（27歳）は、目を輝かせながらそう話してくれました。子どもの頃、チャイルド・スポンサーシップの支援を受け、学校に通うことができるようになり、２年前、「学校の先生」になるという幼い頃からの夢をかなえたのです。

タンザニアは、アフリカ最高峰のキリマンジャロ山や、野生動物が暮らす国立公園など雄大な自然が広がり、世界中から訪れる観光客を魅了する一方、日々の「飲み水」を求めて、見渡す限りの渇いた大地を何キロも、何時間も歩かなくてはならない子どもたちがいます。

エリエットさんも、「飲み水」を求めて歩いていた一人でした。家から井戸までは往復4時間。乾期で井戸が枯れる時期はさらに遠くの川まで歩き、水汲みに1日９時間かかる日もありました。とても学校に通える状態ではなかったといいます。

エリエットさんと生徒たち

「９歳の時、ワールド・ビジョンの支援で村に井戸ができたの。それで学校に通えるようになったのよ！」

エリエットさんは言います。「ワールド・ビジョンのスタッフが大好きだった。私に、『私は夢をかなえることができる』ことを教えてくれたの。それまでは、自分が何になりたいかなんて考えたこともなかったし、考えたとしても実現できるなんて思っていなかったわ。だから私は生徒たちに勉強を教えるだけじゃなく『あなたにも、人生を変える力がある』ということを教えていきたいの。私が人生を変えることができたように」

チャイルド・スポンサーシップの支援は確実に届き、エリエットさんの人生が変えられたように、子どもたちの人生に希望と変革をもたらしています。まだ世界には、貧困のために未来への可能性が奪われている子どもたちがたくさんいます。チャイルド・スポンサーシップのお申込み、また、チャイルドもう一人分のご支援いただける方は、お電話ください。

0120-465-009

World Vision News No. 181
2015年３月発行　ワールド・ビジョン ニュース
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2ハーモニータワー 3F
TEL 03-5334-5351(平日9:30～19:00) FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp
www.worldvision.jp
MC12508

World Vision News No. 181 2015年３月 ワールド・ビジョン ニュース

World Vision
この子を救う。未来を救う。

特集

自然災害に負けない支援を目指して

シリア危機４年、失われた世代を作らないために

2014年12月、フィリピンを襲った台風22号で被災した村に住む男の子

干ばつ発生後、人々が移動して村がなくなってしまったため、学校も閉鎖となり教育を受けられなくなったモハマド君（10歳）。防災・減災により自然災害の影響を減らすことが求められています

特　集

自然災害に負けない支援を目指して

「防災・減災」で子どもたちを守る

東日本大震災から４年。災害時に被害を出さないようにする「防災」とともに、防ぎようのない被害を最小限に抑えるための「減災」が、今までにも増して世界的に注目されています。ワールド・ビジョンは、干ばつ、地震、台風、洪水などの様々な災害を前もって想定し、そのリスクに備えて子どもたちを守る「防災・減災」の活動に力を入れています。皆さまからの尊いご支援で行われた活動の成果が、自然災害によって損なわれるのを防げるように、そして、子どもたちの成長するコミュニティが自然災害に対応する力をつけ、被災してもその後に回復できる強さを育むことを目指しています。ワールド・ビジョンの支援活動にとって「防災・減災」は必須の要素で、緊急人道支援はもちろん、チャイルド・スポンサーシップによる支援においても、次の３原則による活動を行っています。

① コミュニティが抱える脆弱性を減らす
② 災害がもたらす危険を緩和する
③ コミュニティが災害に対応できる力を育てる

ソマリア、ウガンダ、エクアドル、そしてフィリピンから、活動事例を報告します。

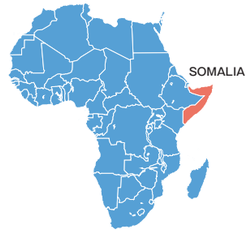
国連防災世界会議に参加します

3月14～18日、仙台で「第３回国連防災世界会議」が行われます。この会議は国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議で、各国首脳・閣僚を含む政府代表団、国際機関、国際NGOなど5000人以上が集まる見込みです。ワールド・ビジョンも参加し、モンゴル等から来日する子どもたちの声を届けます。

①コミュニティが抱える脆弱性を減らす

ソマリア

弱い立場の人も、最低限の食料は手に入れられるように



ソマリア：東アフリカに位置し、人口956万人の約60%が家畜の生産に依存している。内戦や無政府状態が続いた結果、インフラや社会サービスは現在も皆無に等しく、人道的なニーズが非常に高い。国連が定める最貧国の一つ

背 景

ソマリアでは、近年の気候変動に伴い、頻繁に干ばつが起こっています。2011年の東アフリカ大干ばつの時には、食料を求めて約90万人が周辺国に難民として逃れたほか、数万人の餓死者が出たと報じられました。本来は厳しい気象条件の中でも生き抜いてきた人々ですが、災害が短い間隔で発生するため、被災から回復できずまだ弱っている状態で次の災害を迎える、という悪循環に陥っています。

ソマリアでは 20万人以上の子どもが栄養不良と報告されています。ワールド・ビジョンは栄養不良を改善するための支援を継続すると同時に、干ばつ等の自然災害に人々が対応できる力を高めるための支援を実施しています。

栄養状態の診断を受けるジャマ君（2歳）

対 応

ワールド・ビジョンなど、ソマリアで５年以上活動している国際NGO7団体は、この悪循環に対応するためには、短期的な救命や食料支援にとどまらず、中長期的にコミュニティの力を育成することで、人々が干ばつから受ける負の影響を少なくする、つまり、コミュニティの脆弱性を減らすための支援が必要という合意に至り、共同事業を実施しています。

成 果

道路を整備し、収入を手に

市場にアクセスするための道路や、灌がい施設等を整備する作業に参加する人々に対価を支払うこと（キャッシュフォーワークという支援の方法）で、コミュニティの中でも特に弱い立場の人々（世帯主の女性など）が収入を得て、災害発生時に備えることができ、同時にコミュニティのインフラも整備される、という活動です。年間を通じて食料危機が発生しやすい乾期でも、収入を得られることで食料を入手できる可能性が高まります。

市場までの道路を整備する女性たち

「これで孫たちに十分に食べさせてあげられる」

そう語るのは、「シェア・クロッピング制度」の導入によってできたグループのメンバー、イジャボさん。この制度により、土地を持っていない人々が土地所有者の畑で耕作して得られる取り分が、それまでの収穫量の3分の1から、3分の2へ増加しました。イジャボさんは、入手できる食料がこれまでの２倍に増え、７人の孫たちに十分に食べさせることができるようになったのです。土地所有者はより良い農法についての研修を受講するとともに農具や種子の支援を受けました。

シェア・クロッピングに参加したイジャボさん

チャイルド・スポンサーシップの支援地域から

② 災害がもたらす危険を緩和する

ウガンダ

活躍する防災委員会

背景

チャイルド・スポンサーシップによるウガンダのナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム(ADP)では、干ばつ、洪水、暴風雨等従来からある自然災害に加え、近年、森林伐採などの人為的な自然破壊が引き金となる災害リスクが高くなってきました。これらの問題により、子どもたちの安全な通学が妨げられたり、農作物が不作となり十分な食事ができなくなるなどの問題が発生します。

子どもたちが安定した環境の中で元気に成長していくためには、災害への備えが不可欠です

対応

こうした状況に対処するため、ワールド・ビジョンは、県、区、村など、それぞれの行政レベルごとに設けられた、地域の人々から成る防災委員会の能力強化に力を入れています。研修を実施し、災害が発生した場合に、被害が大きくなる原因は地域が抱えるどのような状況と関係しているのかを予め想定できる力を高め、災害が発生した場合の被害を最小限にできるよう、ともに活動しています。

成果

コミュニティが進める災害早期警報システム作り

災害発生時にコミュニティの中で被害が発生しやすいのはどこかが把握されてきたこと（脆弱性の評価）や、災害の可能性を早い段階で知り、対応するための早期警報システム作りが進んでいることが成果です。今では、農家の人々に環境省が発表する気象情報が迅速に届くようになり、農家が農業を計画的に実施することを助けています。携帯電話を持つ農家には環境省から直接情報が配信され、さらに多くの農家への情報伝達には、村の掲示板や地域のFMラジオ局が活用されています。また、森林破壊や過去の災害による影響が大きかった地域や、活用できる地域のリソースがどこにあるのかについて情報が整理され、今後のための分析に用いられるようになりました。

過去に浸食された土地や、洪水が頻繁に起きる地域の情報をまとめ、
災害に備える早期警報システムを策定するコミュニティの人々

防災計画について話し合うコミュニティの人々

チャイルド・スポンサーシップの支援地域から

③コミュニティが災害に対応できる力を育てる

エクアドル / フィリピン

子どもが参画する防災活動

日本の子どもたちが幼い時から防災頭巾に親しみ、防災訓練を繰り返すように、子どもが早い時期から防災意識を育むことは、その地域の災害対応力を育てる上でとても大切です。エクアドルとフィリピンでの実践をご覧ください。

エクアドル ～子どもの意見を引き出して～

チャイルド・スポンサーシップによる支援を行っているコルタ地域は、アンデス山脈の中腹に位置し、場所によっては標高3000mを超える高地です。周囲には活火山もあり、地震や豪雨などによる地滑りも起きやすいため、災害リスクに備える必要の高い地域です。

かつて、この地に栄えたインカ帝国の時代にはキープ（結縄）という紐に結び目を付けて情報を伝達する方法が用いられていました。「防災・減災」活動において、子どもたちの意見やニーズがしっかり反映されるように、このキープを用いた活動が行われています。ある学校では、70人の小学生が参加し、「防災・減災」をテーマに、それぞれの考えをキープに託し、発表しました。このように子どもたちが自ら発表することで、「防災」の大切さが身につくとともに、実際に災害が起きた時に「減災」につながります。

子どもたちがキープに意見を記している様子

フィリピン～活かされた防災トレーニング～

自然災害が多く発生するフィリピン。2013年11月に台風30号（ハイエン）が発生した際には、フィリピン中部を中心に死者6200人以上、行方不明者1700人以上という甚大な被害がありました。

防災トレーニングの様子と学んだことを発表する女の子

チャイルド・スポンサーシップによる支援を行っているレイテ地域は、台風 30号で最も大きな被害を受けたレイテ島タクロバン市内。地域の行政機関と連携し、子どもたちを対象にした防災トレーニングを実施しています。2014年度は 102人の子どもたちが参加し、温暖化や気候変動、災害の発生前後にどう行動すべきかを学びました。台風 30号の経験や、トレーニングの学びは、昨年12月に台風22号（ハグピート）の発生時に役立ちました。「子どもたちは台風の情報を注視し、懐中電灯、ろうそく、マッチなどの避難道具を準備して備えていました」とスタッフは語ります。今後も、「防災・減災」に長期的に取り組んでいく計画です。

支援校の一つ、面瀬小学校では、子どもたちが復興を願う気持ちをこめ、防災倉庫の壁面に「未来の面瀬」をテーマとした壁画も制作しました

東日本大震災支援での「防災・減災」

ワールド・ビジョン・ジャパンは東日本大震災の支援においても防災・減災を意識した支援を行いました。宮城県と岩手県の被災地で、再び発生するかもしれない大災害に備え、多くの人の避難所となる小・中学校に防災倉庫、井戸、太陽光発電システムを支援するとともに、潮位・津波観測システム設置などの防災・減災支援を行いました。

シリアから避難しヨルダンの学校に通うハザールさん（17歳）

シリア危機４年、
失われた世代を作らないために

中東シリアで、政府軍と反政府軍による武力衝突が本格化してから、３月で丸４年が経過します。これまでに 300万人以上が隣国へ避難し、先の見えない生活を強いられています。このような状況の中、ワールド・ビジョンはどのような支援を届けているのか、現地の様子はどうなのか ―。具体的なエピソードを交えながらご報告します。

子どもの未来をつなぐために、教育支援を実施しています

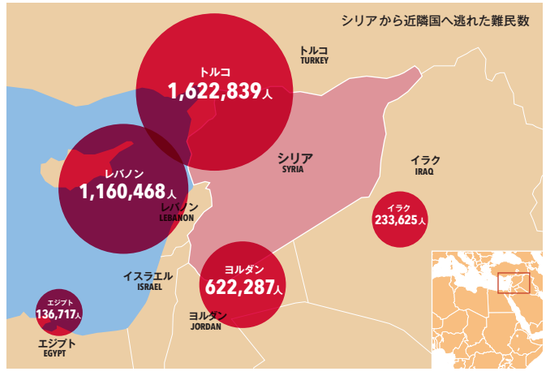
ワールド･ビジョンは内戦直後から緊急支援を開始。これまでに、シリアをはじめヨルダン、レバノン、イラク等に逃れた人々約173 万人に、水や食料等の支援を届けました。

日本からの支援として､ワールド･ビジョン･ジャパン（WVJ）は、シリア難民とヨルダン人の子どもたちのため、2014 年 4月からジャパン・プラット・フォーム（JPF）からの助成金と、皆さまからの募金により教育支援事業を実施しています。

60万人以上のシリア難民を受け入れているヨルダン。

難民受け入れ地域では、急激な人口増加による食料や家賃の高騰等により、地域住民との軋轢が生じています。シリアと国境を接する

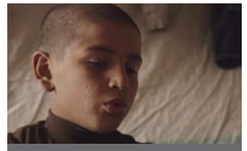
難民キャンプで配布される食料品を受け取る子ども

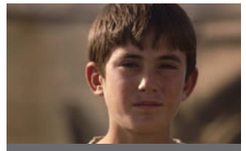


Last Updated 15 Jan 2015
Source - UNHCR, Government of Turkey, AFAD, UNHCR Registration, UNHCR Registration Unit

シリアから
逃れなければならなかった
子どもたちの証言

私は恐くて何度もお父さんを叫んで呼びました


目の前で人が死んでいくのを見ました


僕は紛争でいとこを失いました

ヨルダン北西部イルビド県でも、子どもが急増したことで、学校が午前と午後の二部制になる、教師や教材が不足する等の事態となり、教育の質が低下していました。

WVJ は､子どもたちが授業についていけるよう５つの教育センターを設置、現在、約 720人の子どもが補習授業を受けています。保護者や地域の人々に対しても、教育の重要性を訴え、子どもたちが学ぶ機会を失わないよう支援しています。また、戦闘体験等により情緒不安定な子どもたちが多いことに鑑み、音楽やゲーム等のレクリエーション活動を実施しています。

レクリエーション活動の様子

難民キャンプで暮らすハザールさん

「以前は、学校に行くのがとても怖かった。地元の子たちが威張っているし、仲間に入れてもらえなかったから」しかし、ワールド・ビジョンが携わる若者のための学習施設に通い出してから､彼女の心境に変化が。「アラビア語の読み書き等､新しいことを学べるって本当に素敵。ここでできた友達は、本当の兄弟、姉妹のようです」しかし、故郷や離ればなれになった家族への想いは忘れることが出来ません。ハザールさんは､「生まれ育った村や家､兄弟が恋しい」とつぶやきました。

WVJ は、ハザールさんのように困難な状況にある人々が、未来への希望を持って生きられるよう、これからも支援していきます。

シリア難民支援募金を受け付けています。詳しくはホームページから　ワールド・ビジョン　シリア募金

子どもたちが安心して遊び、学べる場所を提供できるように

ヨルダン駐在スタッフ　國吉美紗

補習授業を始めて数週間で､保護者の方から「子どもがアラビア語を読めるようになった」という報告を受けました。とても嬉しかったのと同時に、このような支援が非常に必要をされていることを実感しました。これからも、子どもたちが教育を受ける権利を守るために活動を継続していきたいと思います。

ホームページから國吉スタッフのブログを読むことができます。

子どもたちと國吉スタッフ

チャイルドの「卒業」が突然やってくることがあります

ご紹介しているチャイルドが、引越し等の理由により支援地域を離れるため、突然、支援から「卒業」することがあります。引越しのほかにも、就職、結婚等、理由は様々ですが、いずれの場合でも、このチャイルドとの手紙での交流はできなくなり、成長報告のお届けも終了します。

チャイルドの成長を楽しみに見守ってくださっているチャイルド・スポンサーの皆さまにとって、チャイルドとのお別れは残念で、「せめて事前に連絡してくれたら」と思われると思いますが、電話やメールなどの通信手段の乏しい支援地域に住むチャイルドの状況の変化は、スタッフが一軒一軒訪問して初めてわかるのが現状です。

チャイルドは、これまでいただいた支援によって身に付けたことを活かして新しい人生を歩んでいきます。また、チャイルド・スポンサーシップは、子どもたちの健やかな成長に必要な環境を整える支援ですので、成果は地域に残り、引き継がれていきます。何より、チャイルド・スポンサーの方からご支援いただいた記憶は、チャイルドの心に残り続けます。チャイルドが転機を迎え、未来に向かって踏み出す一歩を、ぜひ応援してください。

ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）では、皆さまにできるだけ早くご連絡を差し上げるとともに、まだ支援を待っている新しいチャイルドをご紹介します。一人でも多くの困難な状況を生きる子どもたちに支援を届けられるよう、引き続き新しいチャイルドを通してご支援にご協力いただければ幸いです。

チャイルド・スポンサーの皆さま「ありがとう」

いっしょに幸せになろう。
チャイルド・スポンサーシップ

オンラインサービス「マイ ワールド・ビジョン」ご登録はお済みですか？

利用者数 7000人突破！

昨年10月にリニューアル・オープンしたオンライン・サービス、「マイ ワールド・ビジョン」。もうご利用になられましたか？　アカウントを作ってログインすると、チャイルド・スポンサーシップを通してご支援いただいているチャイルドの写真や、地域の写真と動画等をご覧いただくことができます。写真や動画は今後更新していく予定です *。ご期待ください。
さらに、チャイルドに手紙を作成してすぐに送れる「Eレター」もご利用いただけます。多くの方から、「写真が添付できて便利」、「こんなシステムが欲しかった！」と喜びの声が届いています。まだ使ったことのない方は、ぜひお試しください。

* ご支援いただいている地域の状況によりご覧いただける内容が異なります。ご了承ください。

パソコンやスマホからご利用いただけます

支援地域の様子が分かる写真や動画が届きます

「マイ ワールド・ビジョン」の登録方法

ホームページ ▶ マイ ワールド・ビジョン ▶ アカウント作成

手続き完了後、メールでアカウント登録完了のお知らせを送ります（アカウント作成から、数日お時間をいただく場合があります）。

“走る”ことが “支援”に変わる

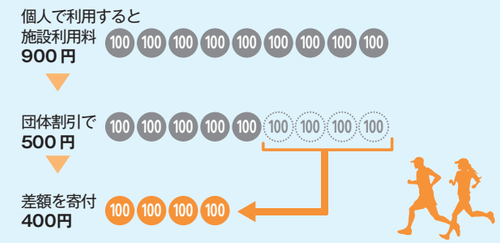
**全国５万人以上いるチャイルド・スポンサー。年齢や立場は様々ですが、同じ想いでチャイルドを支えています。
今回は、“走る” を通して、チャイルド・スポンサーシップに参加しているモニラン会の活動について、代表の倉本岳さんに聞きました。**

モニラン会メンバーの皆さん

モニラン会とは？

モニラン会は、様々な年代や国籍を持つ個性豊かな人たちが一緒に走ることを目的としています。走ることを通して、新たな仲間と出会えることも一つの魅力です。
“みんなで楽しく走る” をモットーに、毎月第3土曜日の朝に、皇居周辺を走る「皇居ラン」、また、季節のイベントが楽しめる「イベントラン」、初心者向けの「はじめてのハーフマラソン」（今秋、初開催）などを展開。2013年４月の創設以来、300 人以上のランナーが参加しています。

モニラン会では、着替えやシャワーを浴びられるランニングステーションの個人料金と団体料金の差額（1人あたり400円）をチャイルド・スポンサーシップに寄付しています。



支援を始めたきっかけは？

モニラン会を発足した当初はまだ、チャイルド・スポンサーシップに参加していませんでした。ですが、私には学生時代のバックパッカーの経験や模擬国連というサークルで活動した経験から、国際協力や支援活動に具体的なアクションを起こしたいという思いがありました。そんな時、ランニングステーションを団体料金で使用することで支援はできるのではないかと気づいたのです。WVJ の事務所へ伺い、この考えについて相談し、モニラン会は、カンボジアのリシー君のチャイルド・スポンサーになりました。

モニラン会がチャイルド・スポンサーシップを通して出会ったカンボジアのリシー君（10 歳）

メンバーの声

この方法を導入したことで、これまで自分の健康のためや、趣味としてランニングをしていたモニラン会の参加者に「自分のランニングがカンボジアのチャイルドのためにもなるのは嬉しい」という気持ちが生まれました。モニラン会の支援はまだまだ小規模ですが、今後活動を拡大し支援の規模も大きくしていきたいと思っています。

モニラン会のように、団体やグループでチャイルド・スポンサーシップに参加することができます。ご関心のある方はぜひお問い合わせください。

くらもと　たけし
倉本 岳 さん

神奈川県横浜市生まれ。上智大学卒業後、教育出版系の会社に入社。社会人３年目。仕事と並行して、モニラン会（Morning Running Club）を運営。

「ラブギフト」
ー海を渡って届く、子どもたちへの贈り物ー

途上国の子どもたちの生活に役立つギフトを選び、贈ることができる「ラブギフト」にご参加ください！

3 月 2 日より、ホームページから、「ラブギフト」を受け付けます。ギフトのリストから、子どもたちに贈りたいものを選び、必要額を募金していただくと、途上国の子どもたちにギフトが贈られます。あなたの選んだギフトが、子どもたちに新しい生活と、笑顔をもたらします。

今年の「ラブギフト」では、文房具、机など勉強に必要なギフトや、雌鶏や豚など収入向上につながるギフトを贈ることができます。実際に選んだギフトが贈れる「ラブギフト」、ご友人やご家族にもぜひお知らせください！

ホームページから、ご参加ください

ワールド・ビジョン　ラブギフト

ホームページからギフトを選んで募金する。スマホも利用可。

昨年は、たくさんの方がご参加くださいました！

昨年実施した「ラブギフト」では、3,705,240 円の募金をいただき、487 のギフトを届けることができました！

文房具や制服などの通学セットを受け取って、お母さんと喜ぶネパールの少女

ラブギフトに参加された方には報告書をお届けします。

日本サッカー協会 × ワールド・ビジョン・ジャパン
ONE GOALキャンペーンが始まりました！

2015 年 1 月、AFC アジアカップ試合会場にてキャンペーンに協力した日本の代表選手たち

日本サッカー協会 (JFA) とワールド・ビジョン・ジャパンが協力し、サッカーを通して、アジアと日本の子どもたちの栄養改善に関するアドボカシー (啓発) キャンペーン「ONE GOAL」を始めました。

北澤豪氏 (JFA理事) と高倉麻子氏（U-18 日本女子代表監督）を親善大使に迎え、JFA 主催の競技会での「ONE GOAL」キャンペーンのアピールや指導者、審判員、選手やサッカースクールに参加している子どもたち向けにアジアと日本の子どもたちの現状を伝える啓発活動等を計画しています。

どの国の子どもたちにとっても、栄養ある食事は健やかな成長に不可欠です

INFORMATION

WVカフェに参加してみませんか？

チャイルド・スポンサー同士が交流できるイベント「WV カフェ」を月 2～3回、全国各地で開催しています。団体説明や支援活動報告を聞くことができます。ご家族ご友人をお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。参加ご希望の方は事前にホームページ、Eメール、または、お電話にて WVJ までお申込みください。(締切は開催日の３日前です)

1 月に福岡で開催された WV カフェの様子

2015年 3 ～ 5 月 開催

東京
日時：3月10日(火) 19：00～20：30
会場：新宿住友ビル47F
スカイルーム会議室 Room1
新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
TEL：03-3344-6983

埼玉
日時：3月22日(日) 14：00～16：30
会場：大宮ソニックシティ９階 905会議室
さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
ソニックシティビル
TEL：048-647-4111

静岡
日時：3月22日(日) 14：00～16：30
会場：パルシェ(JR 静岡駅ビル)7 階 D会議室
静岡市葵区黒金町49
TEL：054-252-2202

沖縄（浦添市）
日時：4月11日(土) 14：00～16：30
会場：浦添商工会議所 3F中研修室
浦添市勢理客 4-13-1
TEL：098-877-4606

沖縄（沖縄市）
日時：4月12日(日) 13：30～15：30
会場：沖縄市男女共同参画センター ３階会議室
沖縄市住吉 1-14-29
TEL：098-937-0170

京都
日時：5月16日(土) 14：00～16：30
場所：京都テルサ 東館３階Ｃ会議室
京都市南区東九条下殿田町 70 番地
京都府民総合交流プラザ内
TEL：075-692-3400

兵庫
日時：5月17日(日) 14：00～16：30
場所：三宮コンベンションセンター５階
505 会議室
神戸市中央区磯辺通 2-2-10
ワンノットトレーズビル
TEL： 078-291-5025

6 月は北海道で WV カフェを開催予定です。
会場が決まり次第、ホームページ、E メールでご案内いたします。

事務局からのお知らせとお願い

本誌「ワールド・ビジョン ニュース」の発行回数が変わります

ワールド・ビジョン ニュースは、昨年実施したアンケートの結果やコスト削減を考慮し、年４回発行を３回(3月､6月､11月発行)に変更します。そのためこれまでチャイルドへのクリスマスカードの準備のために秋号（9月発行）でご案内していた「グリーティングカードの書き方」については、本誌同封の保存版マニュアルをご利用ください。
※グリーティングカードの書き方はホームページでもご覧いただけます。

住所変更のご連絡はお早めに

住所変更をご希望の方は、お早めにコンタクトセンターまで、新しいご住所とともにお名前とパートナー番号をご連絡ください。また､ホームページからも各種手続きを承っておりますので、あわせてご利用ください。

コンタクトセンター
TEL　:03-5334-5351
Eメール :dservice@worldvision.or.jp

ルワンダのスポンサーの皆さまへ

ルワンダのチャイルドへの手紙のあて先が変わりました。英語や現地語のお手紙を直接現地へ送られる場合は、今後以下のあて先へお願いします。

SRS Manager
World Vision　RWANDA Program
P.O.Box 4253
Kacyiru-Sud, Kigali, RWANDA

グローバル教育コンクール2014で「入選」しました！

「命の木プロジェクト」の一環としてカルタや紙芝居を使った取り組みが JICA (独立行政法人国際協力機構) 主催グローバル教育コンクール 2014で入選しました。

詳しくはホームページから

世界の子どもカルタ

世界に思いをはせて VOL.1　事務局長　片山信彦

ベトナムで開催された
AFC 女子アジアカップの大会にて

昨年、腰痛が悪化したのですが（現在は大分回復しています！）、そのおかげで気がついたことがあります。その一つは、腰痛のため普段通りに道を歩けなかったため、途上国ではよくあることですが日本の道路にも結構でこぼこがあるということです。目の不自由な方や車いすで移動される方にとっては大変なことだなと思ったのです。しかし、ある方から、「もしすべての道で段差がなくなったら、それはそれで目の不自由な方にとっては大変なのです。歩くための印がなくなるので歩きにくいのです」と言われ､「なるほど！」と思いました。人々の多様な必要に細かく気づき、配慮することの難しさ、また、これは途上国への支援事業でも共通することですが、自分の視点や考えだけを主張するのではなく、原則的なルールを守りつつ、ほかの人々の状況や必要に思いをはせ、多様な視点から見つめる柔軟さと敏感さを持つことの大切さ。これが自分の腰痛から教えられたことでした。